

まちの話題



長島の花火は両園とも船上から打ち上げ



たくさんの人が踊りの輪に加わりました (長島愛生園納涼夏祭り)



雨なんて関係ない! 豪快に打ち上げられる花火 (牛窓花火大会)

瀬戸内の夜を彩る夏の祭典

牛窓花火大会、長島愛生園・邑久光明園納涼夏祭り

8月1日、牛窓港(牛窓町牛窓)で牛窓花火大会が開催され、約1,500発の花火が打ち上げられました。市の補助金が休止される厳しい状況の中、市民の力で成功させようと、ボランティア「花火あげ隊」が中心となってバザーや募金を実施。

当日は、始まった途端に雨が降り出すあいにくの天気でしたが、大勢の皆さんが最後まで残って花火を楽しんでいました。

また、7月30日には、国立療養所長島愛生園(邑久町虫明)で、長島納涼夏祭りが開催されました。威勢のいい江州音頭に乘せて、盆踊りにはたくさんの方が参加。入所者や職員との交流を



看護部のロックソーランで一気に盛り上がる会場 (邑久光明園納涼夏祭り)

深めていました。

同邑久光明園でも8月4日に納涼夏祭りを開催。福引きや特設ステージで楽しい出し物などが披露され、観客の皆さんは、笑顔で拍手を送っていました。

親子で楽しくエコライフ

環境フェスティンせとうち

7月26日、ゆめトピア長船で環境フェスティンせとうちが開催されました。

これは、「すくすく育てようエコの芽! つなげていこうエコの輪!」をテーマに瀬戸内市消費生活問題研究協議会が主催したものです。

会場には環境について楽しみながら体験できるさまざまなコーナーが設けられ、家族みんなでパンやご飯といった家庭の残りやすい食材を使ったおやつづくりや、カレンダーを使ったエコバ



パンをこねてこねて、お母さんと一緒にケーキづくり



人形劇で子どもたちもリサイクルを分かりやすく理解

会場には環境について楽しみながら体験できるさまざまなコーナーが設けられ、家族みんなでパンやご飯といった家庭の残りやすい食材を使ったおやつづくりや、カレンダーを使ったエコバツグづくりなどに挑戦してました。

また、同会員による人形劇「鬼が島はゴミの島」も上演。牛乳パック6個でトイレットペーパー1巻ができることなど、ごみの分別や資源の有効利用を分かりやすく紹介してました。

参加者の皆さんは、少しの工夫や節約で環境に優しい生活が送れることを学ぶことができたようです。

いつまでもお元気で

赤木浪子さんが満100歳に

7月20日に赤木浪子さん(邑久町上笠加)が満100歳を迎えました。

7月21日、武久顕也市長や高畑靖明備前県民局健康福祉課長らがお祝いに入所している長船荘を訪問。

赤木さんは、長船荘の職員や入所している皆さんに見守られながら、お祝い状や記念品を手渡されると「あ

食事は食堂でみんなと食べ、待ち時間には折り紙をすることもある赤木さん。長生きの秘訣は、「好き嫌いなく何でも食べること」だそうです。

赤木さん、これからも元気で過ごしてください。



武久市長からお祝い状を受け取る赤木さん(右)

植樹で海へ

牛窓町漁協青壮年部が森林整備

7月15日、「森と海をつなぐ植樹のつどい」が鏡野町奥津で開催され、牛窓町漁協青壮年部(柴田悟部長)の皆さん6人が参加しました。

川から海へと運ばれた森の栄養分が魚介類を育てているとの考えから、昨年、林業・漁業関係者が約1,500平方メートルにモミジなどを植樹。今回はその草刈りです。

約一時間の作業で背丈ほどあった雑草がきれいに刈り取られると、あちこちに苗木の姿が。柴田さんは「森は海の恋人。元気に育ってほしいですね」と話していました。



「大きゅうなつとるが」苗木が見つかるたびに歓声が上がりました

踊りの輪広がる

牛窓出島公園で牛鬼まつり

7月18日に、牛窓出島公園(牛窓町牛窓)で牛鬼まつりが開催されました。

「3世代で楽しめる夏の踊りを」と本牛窓音頭保存会が平成13年から実施。牛窓の歴史や自然などを織り交ぜた本牛窓音頭の「ドンとゆけ、ドンとゆけ」のおはやしに合わせ、にぎやかな踊りの輪が広がりました。

恒例の踊りコンテストには、職場や地域の14チームが息のあった踊りを披露。参加した子どもたちも手作りの牛鬼のお面をかぶって元気に踊っていました。



かわいい牛鬼たちも一生懸命踊りました

300年の伝統を今に伝える

投げ銭供養

7月20日に、庄田山朝日寺で投げ銭供養が行われました。

この行事は、江戸時代中期、尻海の船主たちが、亡くなった仲間たちの霊を供養するために小銭を法要中に投げたのが始まりと伝えられています。

現在では、毎年7月の海の日に行われ、住職が戦没

者と初盆を迎える霊の戒名と供養者の名前を読み上げると、縁故者や知人が白い紙に包んだ小銭を祭壇へ向かって次々に投げるといって、瀬戸内市重要無形民俗文化財にも指定されています。

この日も多くの人が詰めかけ、次々に小銭を祭壇へ向かって投げていました。